

平成20年9月の解説（府県天気予報）

【9月の天候状況】

上旬の初めは低気圧の影響により所々で大雨になりましたが、中頃から高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。中旬の前半は台風第13号の影響で沖縄地方では暴風や大雨となりましたが、その他の地方は晴れの日が多くなりました。後半は台風第13号や前線の影響で東・西日本の太平洋側では大雨となった所がありました。下旬は北日本から西日本にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、中頃から北日本を中心に寒気が南下しました。九州から沖縄地方では後半に台風第15号や前線の影響で暴風や大雨になりました。

月を通しての日照時間は平年に比べて北日本ではかなり多く、南西諸島ではかなり少なくなりました。降水量は北日本ではかなり少なく、九州南部から沖縄地方ではかなり多くなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

【9月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の適中率の全国平均は、明日予報で82%と例年^(注)より2ポイント高く、明後日予報で78%と例年より2ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は北海道、東海、近畿地方では例年より6から8ポイント高くなりましたが、九州北部地方では例年より6ポイント低くなりました。明後日予報は北海道、東海、近畿、四国地方では例年より7から9ポイント高くなりましたが、北陸、中国、九州北部地方で例年より6から7ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて北日本から近畿地方にかけて0.2から0.6小さく、全国平均では例年より0.3小さい1.6でした。また、最低気温の予報誤差は、中国地方で例年より0.3小さく、全国平均では例年より0.1小さい1.3でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の天気予報から】

9月7日は、昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて関東甲信地方の所々で雷を伴った激しい雨が降りました。これは、地上天気図（図1）には現れませんが、上空約6000mにおよそマイナス8というこの時期としては強い寒気を伴った気圧の谷が通過し、さらに、関東甲信地方では晴れて気温が32から33と上がったことにより、大気の状態が非常に不安定になったためです。

前日の6日17時に発表した7日の東京地方の天気予報は、「曇り夜雨所により雷を伴い激しく降る」で、12時から18時と18時から24時の降水確率は、それぞれ30%、50%でした。天気予報では「雨は夕方から」としなかったもの

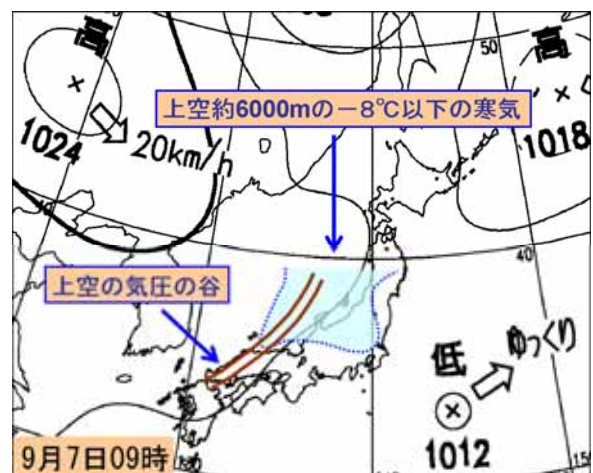


図1 9月7日09時の地上天気図および
上空の寒気と気圧の谷

の、12時から18時の降水確率を30%としたのは、大気の状態が不安定なため、状況によっては予想より早く、夕方には局地的に雷雨となることも考えたからです。

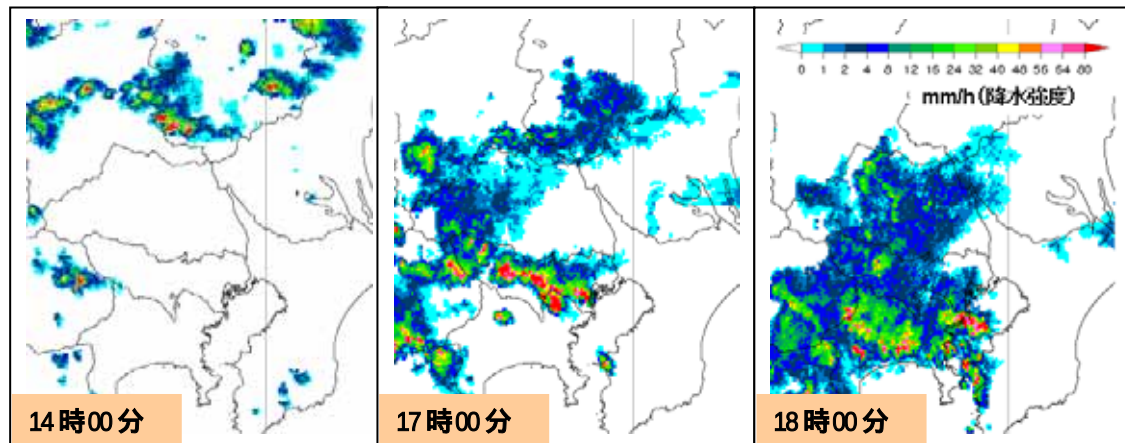


図2 9月7日のレーダーエコー

7日14時の関東地方北部には、発達した積乱雲が発生していましたが、東京地方では、まだ発生していません(図2、左)。しかし、上空の寒気の南下にあわせて、東京地方でも積乱雲が発生し、激しい雨や雷があると予想し、7日14時29分に23区と多摩北部、多摩南部に大雨・洪水・雷注意報、多摩西部に雷注意報を発表しました。その後、16時には東京地方で鹿島灘からの湿った東風と東京湾からの湿った南東風、相模湾からの湿った南風のぶつかる状況(図3)が強まり、今後これらの地域を中心に上昇気流が強まって積乱雲が継続して発生すると予想したため、16時49分に23区と多摩北部、多摩南部に大雨・洪水警報、雷注意報、多摩西部に大雨・洪水・雷注意報を発表しました。

東京地方では16時頃から雨が降り始め、18時までの1時間の解析雨量では、品川区付近や大田区付近で約60ミリ、八王子市付近や日野市付近で約50ミリの非常に激しい雨となりました。その他の地域でも、夜のはじめ頃にかけて所々で激しい雨となりました。

不安定現象による雨は、降る範囲や時間帯、降水量を正確に予想することは難しいことが多いのですが、この事例では現象の起こる2時間前に注意報、1時間前に警報を発表し、注意、警戒を呼びかけることができました。今後もこの事例のように現象が起こる前に適切な気象情報の発表ができるよう予報技術の向上を目指します。

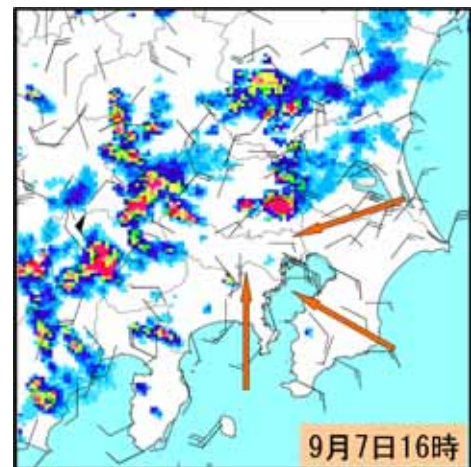


図3 9月7日16時のアメダス風とレーダーエコー

【11月の天気予報の利用にあたって】

11月は日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過して、天気が数日周期で変化することが多いのですが、ときには低気圧が急速に発達しながら通過することもあります。

天気予報や気象情報などで、低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過して暴風が吹くことが予想されている場合には、注意報・警報などの最新の防災気象情報で風の程度や強い風の吹く時間帯などの細かい情報を入手して、風が強くなる前に風に飛ばされそうなものをしっかり固定するなど万全の対策をして被害を防ぎましょう。